体育授業における
生徒の愛好的態度育成に向けた取り組み
－教師のレクリエーション的教材導入に着眼して－

学 籍 番 号　199307
氏　　名　江口賢一郎
主指導教員　林洋輔

１．はじめに

1.1　研究背景

周知のように、わが国の国民的問題ともいえる生活習慣病は単に健康寿命の阻害要因となるだけではなく、医療費増大にも大きな関連がある。ところでスポーツ庁は生活習慣病の予防策の一つとして、子供のいわゆる「スポーツ嫌い」削減に着目し、その具体的指標としてわが国に在籍する中学生全体の 16.3%にあたる当該スポーツ嫌いの生徒を約半分の 8%まで減らすことを目標に掲げている。

ところでこのスポーツ嫌いは学校機関における体育科ならびに保健体育科における教育成果が大きく影響しており、上記スポーツ嫌いの多くは体育嫌いがその主原因を求めることができると先行研究でも明らかにされている。そこで本研究では、保健体育科の授業で中学校生徒のスポーツに対する愛好的態度が育成されることによって体育嫌いが減少し、結果としてスポーツ嫌いの減少につながるのではないかとの着眼より調査を行った。

本研究では、体育科の授業で中学校生徒のスポーツに対する愛好的態度が育成されることによって体育嫌いが減り、結果としての運動・スポーツ嫌いの減少につながるのではないかとの仮説を立てた。この仮説のもと、スポーツの愛好的態度育成につながる教材としての「レクリエーション的教材」を用いてスポーツ嫌いの減少につながる授業を提案する。

1.2　研究目的

本研究では、上記の仮説のもと、スポーツの愛好的態度育成につながる教材としての「レクリエーション的教材」を用いてスポーツ嫌いの減少につながる授業を提案する。また、この授業提案によってスポーツ嫌いの減少につながるか否かを検討するとともに生徒のスポーツ嫌いを減少させ、将来的には生活習慣病予防の基盤形成につながる方途の明示を研究目的とする。

２．研究方法

本実践では、堺市立 T 中学校第二学年の男子生徒 103 名を対象に授業実践を行った。また調査は運動・スポーツ嫌い、および体育嫌いに関する意識調査と、レクリエーション的教材を用いた授業における生徒の気分変容を質問紙法である POMS2 を用いて調査した。POMS2 での調査では、103 名の生徒のうち 15 名を対象に調査を行った。また、レクリエーション的教材を導入する前後での運動・スポーツ、体育授業に対する意識の変化と生徒の気分変容の変化を比較し効果の分析を行った。

３．結果

導入前の授業では陰性気分因子[怒り―敵意][混乱－当惑][抑うつ―落込み][疲労－無気力][緊張－不安]の得点は大きな増加は見られなかった。また、陽性気分因子の[活気－活力][友好]の得点では大きな増加がみられる生徒は 3 名のみであった。

導入後の授業でも陽性気分因子の[活気－活力]の得点ではわずかに低下している生徒はみられた。一方、得点の増加している生徒が授業前に反応を示した 11 人中 7 人と多くみられる結果となった。加えて、陰性気分因子である DD（抑うつ―落込み）が低下しており TMD 得点の変化からネガティブ状態からポジティブ状態になる生徒もみられることが分かった。さらに、2 回目に行った運動・スポーツ、体育授業における意識調査では、運動・スポーツ、体育授業に対する愛好的態度を示す生徒がともに増加した。

４．考察

レクリエーション的教材としたスポーツリズムトレーニングを取り入れた授業では、陽性気分因子の得点が上昇し、陰性気分因子の得点が減少したことと、総合的気分状態を表す TMD 得点の結果から、授業の前後でネガティブ状態からポジティブ状態に変化する生徒がみられた。したがって、レクリエーション的教材を導入した授業では生徒の愛好的態度が育成されることが示唆された。加えて、運動・スポーツ嫌いの減少につながる一つの要因と言えることが示唆された。

今回の実践では、レクリエーション的教材を導入したのが授業導入部のみであったため、この教材を取り入れた授業では生徒の陽性気分を活性化させることが分かった。しかし、授業内容など、他の要因も影響していることが考えられるため、今後は授業科目を絞ること、さらにレクリエーション的教材の開発、導入する時間の拡大を検討していきたい。